

# 利便

人と人をつなぐ、  
地域に愛される商店街へ



新狭山北口商店会員の皆さん  
シンサヤマミューラル作品の前で

## 新狭山北口商店会

### プロフィール

1972年設立。新狭山駅北口から国道16号を結ぶ約350mの沿道を中心に61事業者が加盟(令和4年5月現在)。「シンサヤママーケット」、「シンサヤマミューラル」などの取り組みが評価され、昨年『はばたく商店街30選』を県内で初めて受賞。

川越狭山工業団地関係者の生活を支える商店街として、新狭山北口商店会は発展してきました。しかし、時代の移り変わりとともに店舗数が減少。いわゆるシャッター通りに近付きつつありました。「かつては人であふれる商店街でした。次々に閉店していく姿を見るのは寂しいものでしたね」。そう語るのは新狭山北口商店会・会長の田口博章さん。自身もこの地で創業53年になる酒屋を営んでいます。

「とはいえ、新狭山駅の近くには子育て世代を中心とする若い人たちがたくさん住んでいます。この人たちが商店街に足を運んでくれる、再びにぎわいが戻るのではと考えたんです」

そこで、令和元年度から県の「NEXT商店街プロジェクト事業」に参加し、専門家や行政と協力しながら、商店街に新たな価値をつくり出すことを目指しました。

「多くの方にフォローしてもらいながら、まず行ったのがマーケットの開催です」

元年12月、商店街周辺に住む20〜30代の女性をターゲットにした「シンサヤママーケット」をスタートさせました。クラフト作品やグルテンフリーの菓子と



会長の田口博章さん

いった質の高い商品を扱うことで商店街への誘客を図り、結果的に約1千500人を集客。回数を重ねることで、単に買い物をするだけの場ではなく、地域住民同士のコミュニケーションの場へとなっていました。

「このマーケットを機に商店街へ店舗を構えた事業者もいます。今後は月1回の定期開催にして、単なるイベントではなく日々の暮らしにつながるマーケットにしたいですね」

また、マーケットの開催と併せて行ってきたのが、商店街内のシャッターや壁に絵を描く「シンサヤマミューラル」です。

「新型コロナウイルス感染症の流行でマーケットが開催できない期間でもできることを商店会で模索しているとき、メンバーから『こういうまちならお店を出してみたい』という言葉が出たのにしたい』という言葉が出たのがきっかけとなりました」

シンサヤマミューラルは、ラ



多くの人でにぎわうシンサヤママーケット

イブアートイベントの形式をとるなど、多くの人が参加できるプロジェクトです。創作のプロセスから関わる全ての人がまちづくりの当事者になることで、まちの風景に愛着を持つてもらうことを重視しました。この2年間で描かれたアートは6点。商店街を通り掛かった人たちが作品の前で足を止める光景も目にするようになりました。

「我々が目指すのは持続可能な商店街。現状維持ではなく、新しく商売を始めたいと思える土壌をつくり続けていくことが大切だと思っています。そのためには常に変革が必要。これまでの形式や形態にとらわれることなく、時代やニーズに合わせて変化し続けていきます」